A group of people, including children and adults, are wading in a body of water. They are wearing bright yellow life jackets and some are wearing hats. In the center, a small white boat with a black outboard motor is partially submerged. The background shows a shoreline with buildings and a forested hill under a blue sky with light clouds.

令和元年度  
海洋教育パイオニアスクールプログラム  
実践記録集

浜中町立散布小学校

## 目次

|                        |    |
|------------------------|----|
| ■ 発刊に寄せて               | 1  |
| 1 本校のグランドデザイン          | 4  |
| 2 今年度の実践               |    |
| (1) 1～2年生の取組           | 8  |
| (2) 3～4年生の取組           | 9  |
| (3) 5～6年生の取組           | 11 |
| (4) 地域大感謝祭             | 13 |
| (5) 教職員研修              | 15 |
| (6) 公開研究会・授業研究         | 16 |
| 3 次年度以降の取組（単元計画及び授業計画） |    |
| (1) 小学校6年間を通した学び       | 18 |
| (2) 1～2年生              | 20 |
| (3) 3～4年生              | 25 |
| (4) 5～6年生              | 29 |
| 4 今年度の成果と課題            | 32 |
| ◇ 研究者一覧                |    |



発刊のことば

## 「散布（浜中町）・道東・北海道が 持続的に発展する手段と人材を」

浜中町立散布小中学校 校長 中 村 研 自

浜中町の人口は現在約 6000 人、これが徐々に減少し、2045 年には半減するとも言われています。人口減少は、地域の産業、就職先、医療、教育、文化など、様々な要因で変化するものです。

採る漁業から育てる漁業にシフトし、安定した収入を得て、教育、文化、スポーツ、医療など「強みと弱み」をしっかりと考えて、住民全員で「住みよいまち」をつくるのがこの地域を持続的に発展させる方向と考え、学校教育としてできることを模索しています。

このような中、本校では、地域の重要な資源である「あさり」に焦点をあてて、資源の様子や自然環境・他の漁業との関連までを子どもたちの力で探究する「あさり島活動」に取り組んでいます。

本取組は、平成 22 年度に散布漁業協同組合から「学校用専用のあさり島」を提供していただき、中学校で始まった活動です。当初は「あさり島再生活動」として稚貝まき、あさり料理づくり、あさり調査（マーキング、大きさ・重さ計り）を行ってきましたが、平成 27 年度からは、「あさり島活動」とし、あさりの生態・干潟の環境・蝕害生物・散布のあさり漁・昆布漁についての学習を進め、中学生・教職員・保護者が協力して 2 日にわたって「あさり掘り」を行い、採取したあさを漁組に出荷する体験をしています。今年度、この取組を小学校 5・6 年生も体験しました。

漁協の理解とご好意もあり、活動に対して贈与された益金の活用を生徒が考え、被災地への義援金や、老人福祉施設・散布保育所等への玩具寄贈などさまざまな社会貢献活動を経験しています。

「あさり島活動」はふるさと学習です。「あさり島活動」から様々なことを学習し、将来「まちづくり」に貢献するための知識・技術・活用等を身につけており、また多くの保護者が学校の教育活動に協力しているので学校と保護者地域との信頼関係にも多大な良い影響を与えていると思います。将来家業を継ぎたいと考えている生徒も多いのでキャリア教育の面でも有効と思います。また、教員の側から見ると、都会育ちの教員がへき地の地域を学ぶ機会として資質向上にもなっています。

この 4 月からスタートした散布コミュニティスクールは、散布や浜中、道東の歴史、地理、文化、自然、産業などを題材とした「散布検定問題集」を全戸に配布し、家庭・親子で検定問題に挑戦する姿が見られました。地域全体で「良さを発見する」取り組みです。

「社会に開かれた学校」を目指し、まずは教職員が、この地域を体験し、地域から学んで教育活動を豊かに変えていくこと。学校のみで完結する活動ではなく、この海洋教育パイオニアスクールプログラムの実践を通して進めたいと考えています。現在の小中学生が大人になる「2030 年」、地域の中心として活躍する人材を想定し、学校と地域が本音で話し合い、ともに育てていきたいと考えています。

本日は、海洋教育パイオニアスクールとして広く地域と結びついた実践と、小学校・中学校の 9 年間で「育てたい力」を追求した授業を感じ取っていただけたら幸いです。



発刊に寄せて

# 「海洋教育への期待」

浜中町教育委員会 教育長 佐藤 健二

散布小学校が、海洋教育パイオニアスクール実践校として、海洋問題の探求や地域課題の解決を見据えた学習、地域の特色を活かした学習などに取り組んでこられ、その1年間のまとめとして、この度、実践記録集を発刊しますことに心からお祝い申し上げます。

海洋国である我が国にとって、海と共に生きる意識と資質・能力、そして態度を有する人材の育成は重要課題であり、海洋基本法においては海洋に関する国民の理解増進を掲げ学校教育等における海洋に関する教育の推進が謳われています。これらを踏まえると、海と人との共生を目指し、海に親しみ、海を知り、海を守り、海を利用する海洋教育を、学校教育において充実させることは、大変意義深いものであります。

さて、本校が実践校となった海洋教育パイオニアスクールとは、日本財団、東京大学海洋教育アライアンス海洋教育促進研究センター、笹川平和財団海洋政策研究所からの支援を受け、海洋教育カリキュラムの開発と海洋教育の担い手の育成を行うことで、学校における海洋教育の面的な広がりと質的な向上を図ることを目的とした教育実践を行う学校です。

本校においては、令和元年度から令和3年度までの3年間、海洋教育実践に取り組みますが、初年度である本年度は、総合的な学習の時間を中心として他教科の学習との関連を図りながら学年の段階に応じた教育活動が行われました。中学年においては海を育む「森・湿原」など散布の海を取り巻く環境について学び、高学年においては散布中学校で行われている「あさり島活動」に参加し散布の海の豊かさを体験的に学びました。さらに、各学年の学習のまとめについては、校内で発表するだけでなく、「地域大感謝祭」などにおいて、地域住民に向けて発表する機会も設けられました。

また、令和2年2月20日には、「散布の海からの発信」～散布を誇れる子どもの育成を目指して～というテーマのもと、公開授業研究会も開催されました。小中併置校の特色を活かし、小学校5・6学年の授業及び中学校1・2学年の授業を公開し、協議を深めたことにつきましては、児童生徒が自分たちの活動の価値を実感したり、新たな課題を発見したりしながら、地域のすばらしさを発見し、さらにそれらの学びを広く発信していくよい機会となりました。

今後も「散布検定」、「あさり島活動」などの特色ある教育活動を展開する中で、地域の海や水産業、地域の環境などについて調べ、教科等横断的に探究する活動を通して、地域の海や水産資源と環境の結びつきについての理解を深めるとともに、子どもたちにとって豊かな人生の実現につながる資質・能力の育成を図っていかれますことを期待しています。

結びになりますが、中村校長先生を中心に、一丸となって実践に取り組んでこられた本校教職員の方々に深く敬意を表し、併せて本校教育の益々の発展・充実を祈念いたしまして、実践記録集発刊にあたってのお祝いの言葉といたします。

本校の海洋教育に関する  
グランドデザイン

## 1 我が国における海の重要性

### (1) 地理的環境

地球上の水の97.5%を湛え、地表の7割を占める海は、生命の源であるとともに、地球全体の気候システムに大きな影響を与え、水の循環の大本として生物の生命維持の上で極めて大きな役割を担っている。

面積約447万km<sup>2</sup>、世界第6位の広さを誇る我が国の管轄水域(内水含む領海+排他的経済水域)には流氷から珊瑚

礁までの様々な環境が見られ、沖合に広がる海域には多様な生物・エネルギー・鉱物等の天然資源が豊富に存在している。我々は、この海を資源の確保の場として利用するのはもちろんのこと、世界と交易を行う交通路として、あるいは国民の憩いの場として多面的に利用してきた。現在では総人口の約5割が沿岸部に居住し、動物性タンパクの約4割を水産物から摂取し、輸出入貨物の99%を海上輸送に依存している。

一方、平成23(2011)年3月11日の東日本大震災によって引き起こされた津波は、尊い生命と地域社会を奪い、海洋環境にも甚大な被害をもたらすなど、海の脅威を見せつける結果となった。四面を海に囲まれた我が国には、津波のみならず海に関する脅威が多数存在することを十分に認識する必要がある、これらを踏まえ海と共存しなければならない。

(出典：海洋教育政策研究財団「21世紀の海洋教育に関するグランドデザイン」)



### (2) 海を取り巻く国際社会とのつながり

これまで人類は、領海外は誰もが自由に開発・利用できる「海洋の自由」の考え方の下、新たな資源の可能性を求め積極的に海に進出してきた。特に近年、科学技術の進展により行動能力が増すと、沿岸国による海域と資源の囲い込みが進行したが、一方で世界各地に海洋汚染、資源の枯渇、環境破壊を引き起こし、我々自身の生存基盤を脅かす事となった。

今後更に増加が予想される世界人口が必要とする水・食料・資源・エネルギーの確保や物資の円滑な輸送のためには、今後も我が国一国だけではなく、地球上の全ての国々の協力のもと、海を総合的に管理していかなくてはならない。

(出典：海洋教育政策研究財団「21世紀の海洋教育に関するグランドデザイン」)

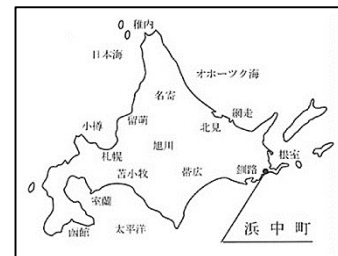
## 2 本校を取り巻く環境

### (1) 地理・自然

本校の所在する浜中町は、道東釧路地方の東端にあり、太平洋に面した霧多布半島は厚岸道立自然公園の一角をなしている。また、約67kmに及ぶ海岸線は砂浜・奇岩絶壁を有し、嶮暮帰島をはじめとする大小様々な島が点在し、内陸部の台地状平原や湿原などの美しい景観に包まれている。

南部に位置する霧多布湿原は、火散布沼、藻散布沼とあわせ「ラムサール条約登録湿地」に認定されているほか、北海道遺産に選定され、その中央部は「霧多布泥炭形成植物群落」として国の天然記念物にも指定されている。

気象は、年間平均気温5～6℃、最高気温20℃前後、最低気温-10℃前後と冷涼な地域であ



り、春から夏にかけては沿岸部を中心に霧が発生しやすく、秋から冬は好天が続き年間雨量は1,000mm程度となっている。

## (2) 浜中町の人口及び世帯数の推移

浜中町の人口は、昭和35(1960)年をピークに減少傾向をたどり、平成31(2019)年3月末現在では5,796人となっている。世帯数は、同現在2,439世帯で、人口、世帯数ともに減少傾向にある。1世帯当たり人数は3人を割り込み、核家族化が著しく進んでいる。

### 【人口等の推移】

(単位:世帯、人)

| 年度    | 世帯数   | 人口    |       |       | 1世帯当たり人数 |
|-------|-------|-------|-------|-------|----------|
|       |       | 男     | 女     | 総数    |          |
| 平成26年 | 2,438 | 3,008 | 3,181 | 6,189 | 2.54     |
| 平成27年 | 2,460 | 2,980 | 3,140 | 6,120 | 2.49     |
| 平成28年 | 2,451 | 2,933 | 3,063 | 5,996 | 2.45     |
| 平成29年 | 2,441 | 2,902 | 2,985 | 5,887 | 2.41     |
| 平成30年 | 2,439 | 2,863 | 2,933 | 5,796 | 2.38     |

[資料:平成31年3月末現在の住民基本台帳]

## (3) 産業別就業構造

浜中町の産業別就業人口は減少傾向にあるが、第1次産業は全体の50%を占め、釧路管内市町村で最も高い構成となっている。漁業就業者は水産資源の減少、魚価の低迷など厳しい経営環境の影響により、減少傾向にあり、後継者不足などが大きな課題となっている。

### 【産業別就業構造】

(単位:人、%)

| 区分    | 平成12年 |       | 平成17年 |       | 平成22年 |       | 平成27年 |       |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
|       | 総数    | 構成    | 総数    | 構成    | 総数    | 総数    | 総数    | 構成    |
| 総数    | 4,490 | 100.0 | 4,280 | 100.0 | 4,018 | 100.0 | 3,745 | 100.0 |
| 第1次産業 | 2,335 | 52.0  | 2,233 | 52.2  | 2,042 | 50.8  | 1,887 | 50.4  |
| 漁業    | 1,652 | 36.8  | 1,536 | 35.9  | 1,375 | 34.2  | 1,240 | 33.1  |
| 農業    | 681   | 15.2  | 695   | 16.2  | 663   | 16.5  | 642   | 17.1  |
| 林業    | 2     | 0.0   | 2     | 0.0   | 4     | 0.0   | 5     | 0.1   |
| 第2次産業 | 589   | 13.1  | 594   | 13.9  | 654   | 16.3  | 613   | 16.4  |
| 第3次産業 | 1,566 | 34.9  | 1,453 | 33.9  | 1,322 | 32.9  | 1,245 | 33.2  |

[資料:国勢調査]

(出典:浜中町役場水産課「平成30年度版浜中町の水産概況」)

## 3 学校における海洋教育の必要性

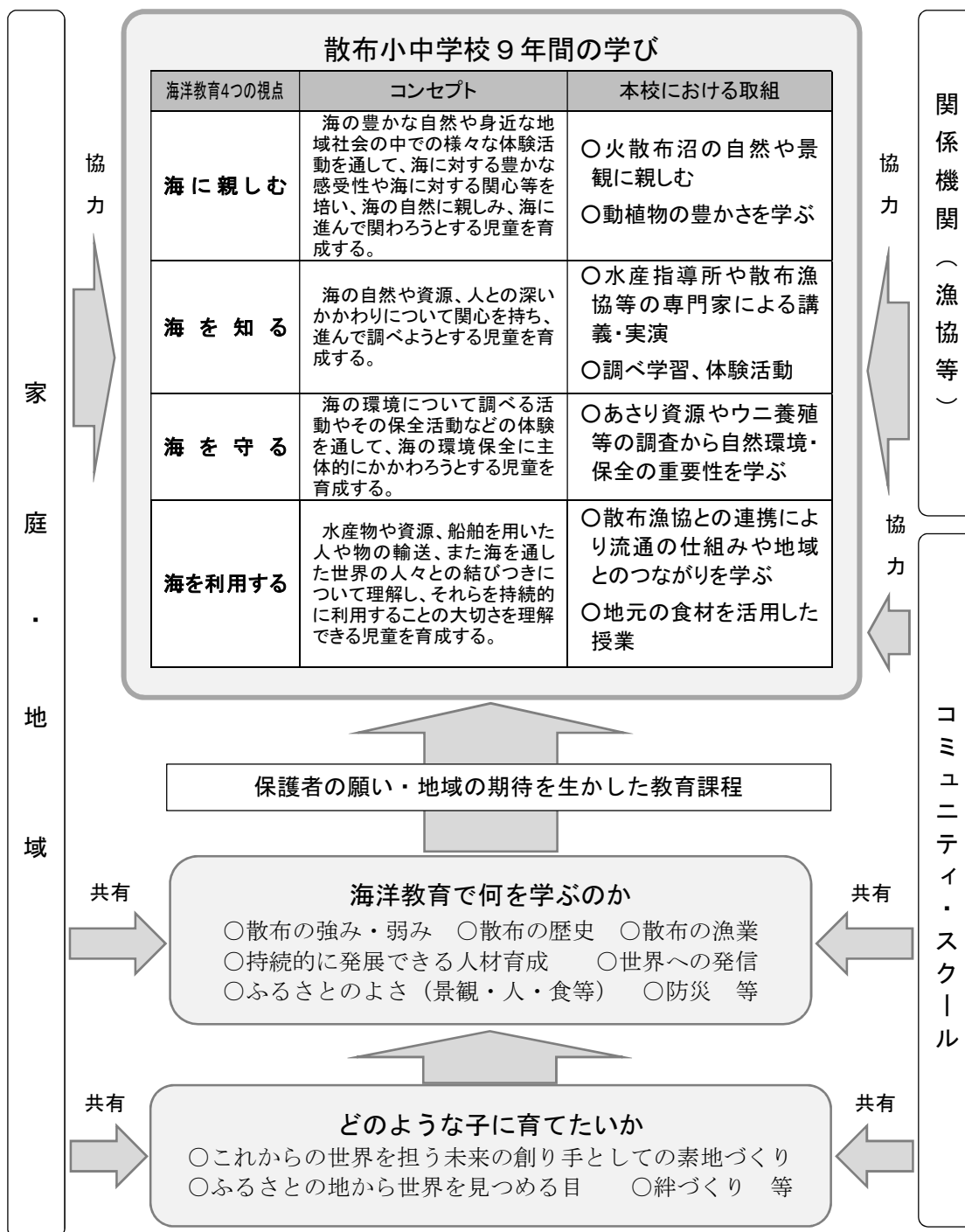
### (1) 法的根拠

平成18(2006)年12月改正の教育基本法では、知・徳・体の調和のとれた発達を基本としつつ、個人の自立、他者や社会との関係、自然や環境との関係、国際社会を生きる日本人という観点から具体的な教育の目標が定められた。これに基づき新学習指導要領では、一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められている。同時に解説総則編では、現代的な諸課題に関する教科横断的な教育内容として、伝統や文化、主権者、消費者、知的財産、環境、食、防災等とともに「海洋に関する教育」が示されている。

(2) 本校における海洋教育「散布学（海洋編）」のコンセプト～社会に開かれた教育課程へ  
 ア 目指すゴール

地域の海や水産業、地域の環境などについての探究活動を通して、地域の海や水産資源と環境の結び付きについて理解するとともに、地域の発展に貢献することのできる人材を育成する。

イ 具体的活動・協力体制



家庭や地域と思いや願いを共有



今年度の実践

## 1・2年生の取組

### 1 はじめに

1年生5名、2年生1名の児童のほとんどの家庭が漁業に携わっており、子ども達も、家の仕事の昆布干しなどを手伝っている。子どもたちにとって、海は、身の回りの環境・生活の糧を得る場・お手伝いの場として、非常に身近なものである。

1・2年生では、例年、生活科での学校周辺の自然探索や、マリンバンク主催の海の子作品展に応募する作品の製作を行っている。今年度は特に、観察などの体験活動や製作を、海洋教育に関連付けて実施しながら、次年度以降のカリキュラム作成を見据えつつ、海洋についての学習を進めてきた。

### 2 今年度の実践

#### (1) 生活：校区探検

春から秋（適宜）

校庭や校区の自然、生物について、その生活の様子や、それらの関係、さらには海との関係について興味を高めることを目的に、校庭や校区の自然探索に取り組んだ。



#### (2) 図工：「海の子作品展」製作

9月（4時間扱い）

マリンバンク主催により毎年実施している海の子作品展に今年度も取り組んだ。この取り組みの目的は、海そのものへの興味を高めることである。なお、これらの作品は、12月に実施される本校文化祭での作品展にも展示される。



### 3 実践の成果と課題

#### (1) 成果

校区探検においては、本校周辺の自然の豊かさに気づき、その栄養分が海に流れ込み、魚、昆布、ウニなどの豊かな海産資源の育成に繋がっていることを学ぶことができた。

海の子作品展においては、児童達は、海の生物、家での仕事の様子、海での遊びなど、様々なテーマの作品を作り上げ、海への興味関心を高めることができた。

#### (2) 課題

二つの取り組みのどちらについても、さらに海との関わりを増やしていく工夫が必要と考えられる。

### 4 次年度に向けて

取り組みの大枠は今年度の継続で良いと考えるが、内容について、身近な海での遊び等を通しての関わる時間をさらに確保し、より海に対する興味関心を高めていきたいと考える。

### 3・4年生の取組

#### 1 はじめに

全家庭が漁業や漁業関連の仕事で生計を立てている本学級において、海洋に関する学習は欠かせないものである。特に学級の男子の多くは「将来、漁師になりたい」と考えており、小さい頃から昆布干し作業を手伝ったり、夏休みは一緒に船に乗って漁を手伝ったりしている。

例年、3・4年学級では、霧多布湿原トラストの協力のもと、地元を知り、地元のために行動できる子どもを育むこと等を目的とした「湿原学習」に取り組んでいるが、今年度は全3回を海洋教育に関連付けて実施することとし、試行を通じて次年度以降のカリキュラム作成を目指した。

#### 2 今年度の実践

##### (1) 湿原学習「酪農業のことを知ろう！」

期日：令和元年6月21日（金）9:30～11:30 講師：Grateful Farm 松岡牧場 松岡 智子 氏

本校周辺は、漁業で生計を立てている方々が多く、同じ浜中町でありながら子どもたちは酪農に触れる機会が少ない。また近年、本地域において散布漁業を中心に「獲る漁業から育てる漁業」へと変革を図り、持続可能な社会の形成を目指したウニの完全養殖が行われているが、子どもたちに漁業と共通する生き物を育てることの大変さや、自然を大切にすること等を学んでほしいと考え、本学習を実施した。

事業当日は、松岡牧場においてチーズづくり体験や餌やり、搾乳などを行ったが、実施に当たり事前に酪農について下調べに取り組み、事後は調べたことや体験したことをもとに新聞としてまとめ、1学期末に発表会を行った。



～児童の声～

・松岡さんは『海と山は友だち』と言っていました。ぼくはこの言葉をすごいなあと思いました。

##### (2) 図工「海の子作品展」作品製作

8～9月（6時間扱い）

海の仕事や自然環境への興味を高めることを目的に、海の子作品展（主催：マリンバンク）に今年度も取り組んだ。



##### (3) 総合的な学習の時間：「散布の海の仕事を紹介しよう！」

取組期間：令和元年9月～10月（19時間扱い）

普段の会話から、子どもたちは散布周辺の自然のよさや家業としての漁業を当たり前なこととして享受しており、携わる人々の苦労や、今ある自然環境を次の世代に引き継ぐ努力をしている人々の思いに触れる機会が必要であると考え、本単元を



計画した。実施に当たり、昆布干しやサケの定置網漁が行われている時期をねらって周辺を散策し、地域の大人との会話や散策で気づいたことなどを探究し、その成果を11月の地域大感謝祭で発表することとした。なお、地域大感謝祭は幼児を連れて保護者も参加することとから、そのような方々にも楽しんでもらえるよう、学習の一環として「魚釣りゲーム」の道具を作成した。



### (3) 湿原学習「旬の魚介類を使った料理教室」

期日：令和元年11月14日（木）10:30～13:30 講師：霧多布ママキッチン 田中 孝子 氏他2名

3・4年児童は、家業の手伝いを通して魚の種類や漁具等に明るい者が多いが、その捌き方や美味しい食べ方等への関心は薄く、魚嫌いの子も多い。そこで、浜中町の魚介類を加工・販売する霧多布ママキッチンにサケやコンブの料理の仕方の指導を依頼した。当日は「シシャモの昆布巻き」「サケのザンギどん」「サケのつみれ汁」づくりを行い、活動を通じて地元で獲れる魚介類への関心を高めた。



～児童の声～

- ・「自分たちでつくったらとてもおいしく感じた」
- ・「地元のよさを感じた」

### (4) 湿原学習「歩くスキーで冬の湿原散策」

期日：令和2年2月13日（木）9:00～11:30 講師：霧多布湿原センター 森田茉莉子氏 他1名

子どもたちに「海と山のつながり」や、その中間に河川や湿原があることを明確に意識付けし、自分たちの住む地域だけではなく一つながりのものとして浜中町の自然を大切にしようとする気持ちを育むことを目的に、冬場にしか入ることのできない霧多布湿原を歩くスキーで散策する活動を計画した。

## 3 実践の成果と課題

### (1) 成果

登下校中など普段何気なく目にしている保護者や地域の方々の仕事に関心を持ち、進んで調べることができた。また、調べ学習の過程で保護者や地域の方々の思いに触れることができ、より一層地域に誇りを持つことができた。

### (2) 課題

今年度、「海と山のつながり」や「海の仕事」に焦点を当てた学習に取り組んだが、地域の豊かな海を進んで守ろうとする取組や、地域のブランド化に関する学びが少なかった。

## 4 次年度に向けて

次年度は、海洋環境保全（海洋プラスチック問題）や、獲れた魚介類の価値を高める工夫等を意識したカリキュラムを編成・実施する。

1 はじめに

本学級は、5年生6名、6年生2名の計8名である。漁業に携わっている家庭がほとんどで、児童も生計の主である昆布漁の昆布干しを手伝う等海との関わりが身近で深いといえる。

本年度から取り組んでいる海洋教育との関わりは、昨年度までは特に意識はされていない現状である。そこで、中学生が行っている「あさり島」活動への参加を通して、自分たちの身近な海に更に関心を持ってもらえるよう活動を位置づけ、また、今までの活動と海洋教育との関連を整理し次年度以降のカリキュラム整備を目指していった。

2 今年度の実践

(1) あさり島活動への参加

あさり島活動は平成22年度から散布中学校で行われている活動である。そのあさり島活動への参加を小学校5・6年生からも参加できるよう校内体制を整えた。

ア 5月14日 あさり島活動オリエンテーション

あさりの生態に関わるオリエンテーションを中学生と一緒に話を聞いた。初めて聞く言葉等が多い中、一生懸命にメモを取る姿が見られた。

イ 5月17日 中学2年生によるレクチャー

あさり島活動での道着の着用方法やあさりの採取方法について中学2年生に教えてもらう機会があった。

ウ 5月20日 あさり活動（1日目）

あさり島へ行き、採取及び外敵駆除を行う。採取量が過去最高の940kgとなる。児童は中学生の編成した3班に別れて意欲的に活動を行っていた。

エ 5月22日 あさり活動（2日目）

天候の関係もあり、1日日程を延期して活動を行った。活動時間ではまだ十分に潮が引いた状態ではなかったが、前回に引き続きあさりの採取と外敵駆除を行う。また、稚貝まきもおこない、次年度以降のあさり島の環境保全についても体験することができた。



(2) 図工「海の子作品」作品製作

毎年取り組んでいるが、今回は5月に行った「あさり島活動」を題材にして、作成に取り組んだ。



(3) 修学旅行 ・北方領土見学

今年度の修学旅行は8月29日・30日の2日間で十勝方面へ見学に行った。十勝方面の産業や景観を体感し、自分たちの身近な生活環境との違いについて見つめるいい機会となった。

9月30日に実施した北方領土見学では、北方領土についての学習や実際に見学することで更に海に対する興味を持つきっ



かけとなった。

#### (4) 海洋教育パイオニアスクール全道成果発表会への参加

1月1日に札幌市において、上記の発表会へ6年生が参加した。発表に関わって、学級全体で発表内容を考えた。「あさり島活動」でわかったことや興味を持ったことを中心に発表内容を考えた。考える際にはブレインストーミングでアイデアを出し、伝える相手を意識した内容を児童で考えた。



発表の際に使用するプレゼンテーションソフトの作成手順や操作についても覚え、作成したスライドを何度も確認する児童も見られた。札幌での発表も、慣れない環境の中で練習した成果を発揮し、大きな自信につながった。

#### (5) 地域大感謝祭での発表

あさり島活動で学んだことのまとめの発表の機会として取り組んだ。3班に分かれ、「あさりの外敵」のこと、「あさり島活動の益金について」、「あさりの生態について」を調べて、プレゼンテーションソフトを使用してまとめた。あさり島活動を通して課題を見つけ、追求してまとめる過程を意識して取り組むことができた。



### 3 実践の成果と課題

#### (1) 成果

今年度から中学校のあさり島活動に参加できたことが何よりの成果である。小中の連携をより図るいい機会となった。また、自分たちの身近な海に関して、様々な体験や見学を通す中で今まで以上に興味・関心を持つことができた。また、本校で取り組んでいる「社会人基礎力」にある「発信力」に重点をおいた活動に取り組むことで、児童に発表や発信させる機会を意図的に行うことができた。



#### (2) 課題

あさり島活動でさらなる小中の活動での連携の仕方を考えていくことが今後の課題の一つである。また、海洋教育を進めていく中での児童の課題意識と探究活動の推進を支えていくカリキュラムの見直しが必要である。

#### 4 次年度に向けて

課題にも記述したとおり、あさり島活動への積極的な参加をカリキュラムに位置づけていく。カリキュラムに関しては、他教科の関連も整理していく必要がある。

## 1 はじめに

地域大感謝祭は、昨年度、文化祭の前日祭の内容を独立させ新しく始めた行事である。地域の方々や他学年と楽しく交流し感謝の気持ちを表すことを目的とした行事であり、昨年度は中学生があさり島活動で得た益金の一部を使った無料のバザー、小学生が模擬店を行った。

実施2回目となる今年度は、海洋教育の視点を盛り込み、散布漁業協同組合の全面的な協力を得て、児童生徒に身に付けさせたい力の一つである「発信」の場となることを目指した。

## 2 今年度の実践

期日：令和元年12月7日（土）8：00～13：30

### (1) 小学校の取組

1・2年生は地域で集めたまつぼっくりやドングリを使ったゲームコーナー、まつぼっくりのけん玉、ドングリのやじろべえやコマのおもちゃ手作り体験コーナー、まつぼっくりのクリスマスツリー、ドングリの指輪などが当たるくじ引きコーナーの模擬店を出店。3・4年生は1人ずつ海について調べたことの発表、調べ学習の動画の上映、散布で獲れる魚介類のイラストと特徴を掲示した釣りコーナー、散布の漁師を模した顔出しパネルなどを展示した。5・6年生は、あさり島活動に関し、あさりの生態、外敵、活動の益金の使い道についてテーマ別の発表と、海洋教育パイオニアスクールプログラム全道成果発表会で行ったプレゼンテーションを披露した。



### (2) 中学校の取組

中学生が漁協から提供をうけた地場産の魚介類と、あさり島活動の益金で調達した材料で無料バザーを行った。

メニュー検討から散布漁協女性部の協力を得て、スパゲッティにタラフライを乗せミートソースをかけた「タラスパ」を考案。本家「スパかつ」のように散布のご当地メニューにしたいと期待を寄せる。他に「タコザンギ」「タラのフィッシュバーガー」「イチゴあめ」の計4品を約100食調理した。

あさり島活動で作った3本のPR動画を上映し、うちわとトートバッグ、ステッカーの配布も行った。



### (3) 地域との連携

#### ア 散布漁業協同組合の協力

以前から漁協も「学校との連携」を強く望んでおり、人材も食材もふんだんに提供を受けることができた。メニュー検討では、散布で獲れる旬の魚介類と美味しい食べ方を教わり、生徒と女性部の方と一緒にメニューを考案した。事前調理ではタラを地域の方から寄

付していただき、獲れたての食材を調理することができた。中学生は40食分のタラの身を漁協女性部の方が素早く切り身にするとところを見学した。



#### イ 保護者や地域の方からの学び

当日は保護者を中心に多くの参加があった。未就学児連れの参加者も多く、小、中学生と交流することができた。児童は調べたことを発表し、参加者は感想や親としての思いを伝えるなど相互の学び合いの場となった。



#### ～小学生の発表を聞いた保護者の声～

- ウニの仕事で一番大変なことはエサやり。ウニはエサをいっぱい食べる。ウニを育てるために、雨の日も雪の日も昆布を取りに行く。みんなが美味しく食べるためにすごい手がかかっている。大きくなったら何かをやるのが大変なことがあるとわかると思う。散布に住んでいていろんなことが見える。少しずつ勉強して行ってほしい。
- 海にごみを捨てないようにみんなで協力してほしい。特にペットボトルやプラスチック製品は海に悪い影響がある。



### 3 実践の成果と課題

#### (1) 成果

児童生徒は、保護者や地域の方々との交流や感謝の意を表すことで地域への愛着を高めることができた。「漁組女性部とコラボ」という新しい取り組みが生まれ、学校の依頼に漁組が応えてくれることを実感した。



#### (2) 課題

地域との連携の場面で事前の連絡調整などで改善点が多かった。漁組の協力姿勢に対し、学校側が何をどのくらい、どこまで協力をお願いしたらよいか遠慮や戸惑いがあった。活動が増えたことで「誰が誰に」感謝をするのか、よくわからなくなった印象だった。多くの大人の協力でかえって児童生徒の活動量が減ってしまうことも懸念される。



### 4 次年度に向けて

改善点やアイデアを出し合って、地域の方々への感謝を伝え地域の魅力を発信する場として育てていきたい。児童生徒に向け感謝祭のねらいや目指す姿を確認する場をもうけることや、中学生のあさり島活動の発表を加えることを検討している。





### 1 はじめに

あさり島活動は、平成22年度に散布漁業協同組合より「学校用専用のあさり島」を提供いただき、中学校生徒を対象に、あさりの生態、干潟の環境、蝕害生物、散布のあさり漁・昆布漁に関する学習やあさり掘り体験等を行ってきたが、今年度、これらの活動に小学5・6年生も加わることから、危険個所の確認、作業の確認、指導者として必要な知識を身に付けるため、次のとおり教職員研修を実施した。

### 2 今年度の実践

#### (1) あさり掘り体験

日時：令和元年4月21日（日）10：30～11：30

場所：火散布沼・あさり島

散布小中学校の職員と保護者であさり島へ向かい、あさり採取活動の下見を行った。あさりの密集地帯や少ない場所、小学生が活動するための水深等を確認した。あさりの密度の様子から、採取と同時に稚貝撒きをすることも同行いただいた保護者から提案された。また、児童生徒のあさり採取の前に、本下見で採取したあさり5kgを貝毒検査のために散布漁業組合へ提出した。



#### (2) あさりの生態学習会

日時：令和元年5月14日（火）10：30～11：20

場所：散布小中学校3階ホール

講師：散布漁業協同組合総務指導課長 西田 善行 氏

釧路地区水産技術普及指導所主査 三好 大介 氏

2名の講師を招き、「あさりの漁獲状況 あさりの生態について」と題し講演をいただいた。昨年までは中学生と教職員が対象であったが、今年度は小学5・6年生も参加した。



### 3 実践の成果と課題

#### (1) 成果

例年通りあさり掘り体験と生態学習会をすることができた。生態学習には小学生も参加し、あさりに対する知識を教職員と共に深めることができた。

#### (2) 課題

これまではあさりの生態学習の内容を3年でローテーションしていたが、小学生の参加により、内容を精査する必要がある。

### 4 次年度に向けて

来年度も教職員研修を継続すると共に内容の充実を図っていく。また、活動学年が拡大したことから、今後更に安全性に配慮していく。

1 はじめに

今年度の研究の成果を町内各校や道内海洋教育実践校に広めるとともに、参加者からのフィードバックによって研究の方向性の修正を図ることを目的に、標記公開・授業研究会を開催した。

テーマを「散布の海からの発信～散布を誇れる子どもの育成を目指して～」と定め、小・中学校の授業公開のほか、本校の研究に関する説明、研究協議を実施した。

2 日時 令和2年2月20日（木）11:15～16:00

3 時程・会場

|    | 11:15 | 11:30   | 12:20         | 13:05   | 14:00                                   | 14:40  | 15:50 | 16:00 |
|----|-------|---|---------------|---|---|--|-------|-------|
| 受付 |       |   |               |   |   |  |       |       |
|    |       | <b>授業公開①</b><br>中1・2年:総合<br>「あさり島活動」<br>授業者:齊藤昌義教諭<br>(会場:3F ホール) | 昼食<br>・<br>休憩 | <b>授業公開②</b><br>小5・6年:総合<br>「散布いいところ探し」<br>授業者:高橋 訓教諭<br>(会場:2F5・6 年教室) | <b>説明</b><br>本校の海洋教育の取組について<br>(1F 理科室) | <b>研究協議</b><br>子どもに深い学びを促す海洋教育の実践の在り方他<br>(1F 理科室) |       | 閉会    |

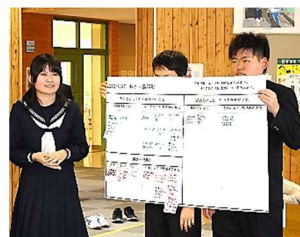


4 参加者 34名

5 参加者の感想～抜粋～

(1) 授業公開①〔中1・2年総合「あさり島活動」〕について

- 1年間の取組がよくまとめられていて、次年度につながる授業であった。
- 話し合いのルール化など意図的に行っていて、新しいものを考えるためのヒント(他の実践例)も出していて、生徒が「いいな」と思ったものを意見として出していたのは良かったと思います。
- 地球・環境をテーマにしており、密着感があってよい。



(2) 授業公開②〔小5・6年総合「散布いいところ探し」〕について

- 何が強みか整理したり、他の子の意見を聞いて考えを深めたりすることに海洋教育を題材としていただいている様子がよく分かりました。
- 児童の食いつきが非常に良いと感じました。グループワークにもよく慣れていて、その先の展望についても深い興味を感じました。
- 最後のまとめで、次への意欲が感じとれました。「こんなこともやってみたい」とそれぞれに思っていました。



(3) 説明（本校の海洋教育の取組について）、研究協議について

- グラウンドデザインが整理されていて、人づくりが明確になっています。
- 様々なアイデアが出て、自校の取組の参考になった。
- 「実践するなら」という視点で考えることができたのは良かったです。
- 海洋教育という枠組みがあるので、山側だったらどのようにつなげられるかを考えてみたいと思いました。



(4) その他、感じたことや気付いたこと

- 生まれた町のよさがきちんと親から子へと伝わっていることが分かりますし、校長先生がおっしゃる通り「海洋教育はおもしろい」ことを根付かせていただければ素晴らしいと思います。
- このプログラムで、子どもたちにいろいろな所でいろいろな人と関わりをもつことができるよう考えていきたいです。
- 子どもたちが地域に誇りを持てる活動になっているようで、そこが素晴らしい。



次年度以降の取組  
(単元計画・授業計画)

2020年度以降の「散布学（海洋編）」の単元計画

今年度の各学級の実践をもとに、子どもたちに必要な学びを精査し、次年度以降の「散布学（海洋編）」の教育課程を編成した。

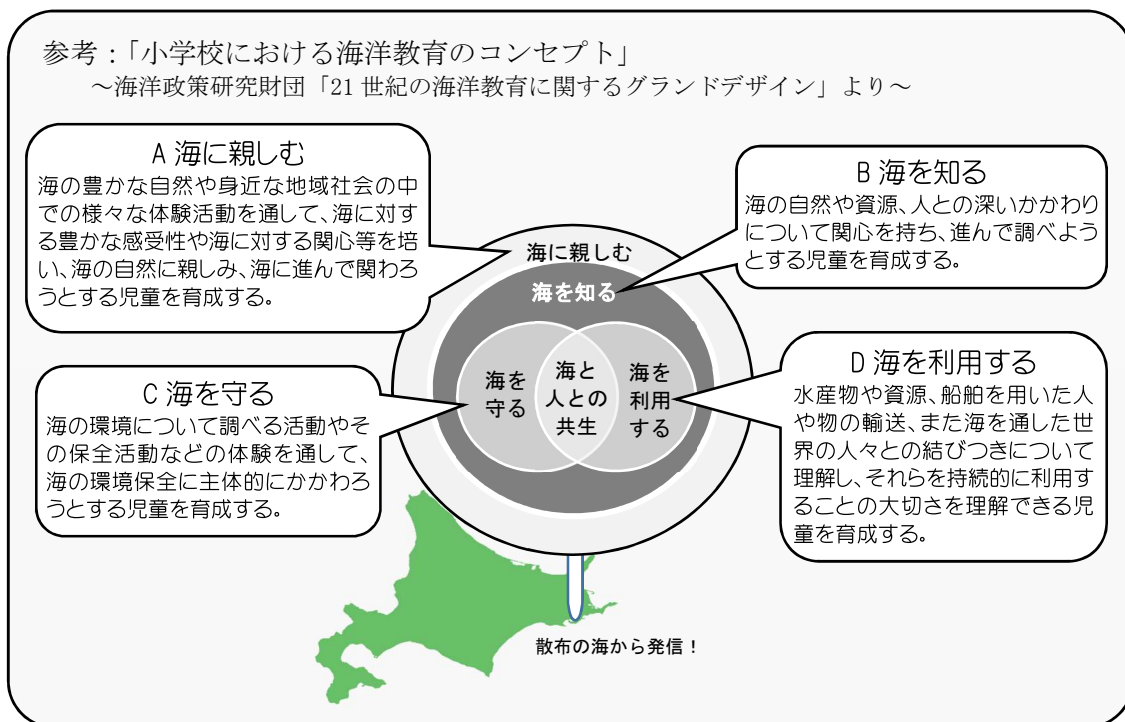
なお、各学年の学習コンセプトについては、海洋政策研究財団発行の「21世紀の海洋教育に関するグランドデザイン（小学校編）～海洋教育に関するカリキュラムと単元計画～」を参考とした。

1 各学年で取り組むテーマ

| 学 年 | 1・2年   | 3・4年                       | 5・6年                       |
|-----|--|----------------------------|----------------------------|
| テーマ | 1年生<br>○きせつとなかよし<br>はる なつ<br>○きせつとなかよし あき<br>2年生<br>○めざせ 生きものはかせ | ○海と山のつながり<br>○散布の海の仕事を調べよう | ○あさりの生態を調べよう<br>○私たちの海を守ろう |
| 備考  | 主に生活科で実施   | 特例教育課程<br>「散布学（海洋編）」       | 特例教育課程<br>「散布学（海洋編）」       |

2 学習コンセプト（「海洋教育4つの視点」より）

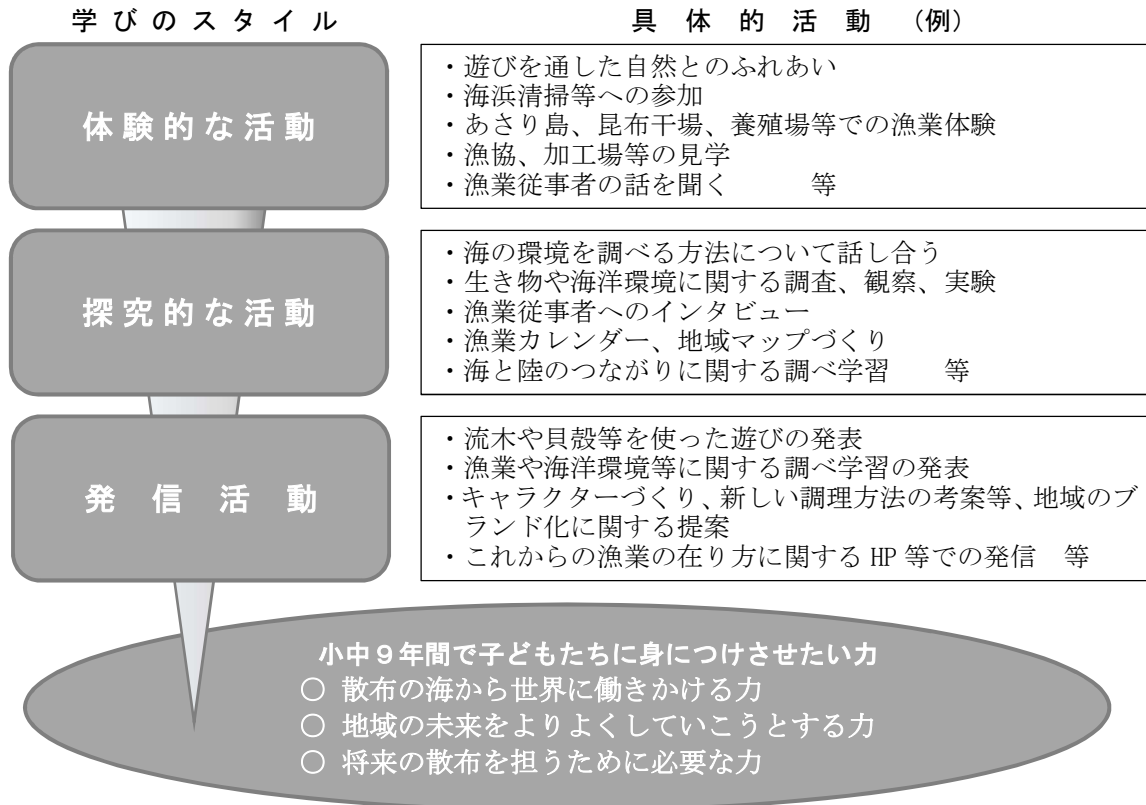
| 学 年   | 1・2年              | 3・4年                        | 5・6年                         |
|-------|-------------------|-----------------------------|------------------------------|
| コンセプト | A 海に親しむ<br>B 海を知る | A 海に親しむ<br>B 海を知る<br>C 海を守る | B 海を知る<br>C 海を守る<br>D 海を利用する |



### 3 学びのスタイル

本校研修部で研修を進めている子どもたちに身に付けさせたい力である「社会人基礎力」と照らし合わせ、次年度以降に取り組む「散布学（海洋編）」の学びのスタイルを、大きく次の3段階に設定した。

なお、この学びのスタイルは、次年度実践を通しながら随時修正を進めていくものとする。



#### ■ 参考資料（社会人基礎力）

経済産業省が主催した有識者会議により、職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要や基礎的な力を「社会人基礎力（=3つの能力・12の要素）」として定義した。

#### 前に踏み出す力（アクション）

～一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組む力～



- 主体性  
物事に進んで取り組む力
- 働きかけ力  
他人に働きかけ巻き込む力
- 実行力  
目的を設定し確実に行動する力

#### 考え抜く力（シンキング）

～疑問を持ち、考え抜く力～



- 課題発見力  
現状を分析し目的や課題を明らかにする力
- 計画力  
課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力
- 創造力  
新しい価値を生み出す力

#### チームで働く力（チームワーク）

～多様な人々とともに、目標に向けて協力する力～



- 発信力  
自分の意見をわかりやすく伝える力
- 傾聴力  
相手の意見を丁寧に聴く力
- 柔軟性  
意見の違いや立場の違いを理解する力
- 状況把握力  
自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力
- 規律性  
社会のルールや人との約束を守る力
- ストレスコントロール力  
ストレスの発生源に対応する力

1 単元名 「きせつと なかよし はる なつ」「きせつと なかよし あき」

2 コンセプト A：海に親しむ B：海を知る

3 実践のねらい

- ・春・夏・秋の自然を諸感覚を使って観察したり、自然物を使って遊んだりする活動を通して、それぞれの季節の特徴や他の季節との違いを見付けることや、それらを使って遊ぶ方法を考えたり、遊びを楽しんだり工夫したりすることができ、自然や生活の様子の変化、自然の面白さや不思議さ、海岸、公園のルールやマナーを守って遊ぶことなどについて気づき、季節を取り入れて遊びや生活を楽しく創り出すことができるようにする。

4 年間活動計画（26時間扱い）

|        | 4月   | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|--------|--|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|
| 体験的な活動 | <b>きせつと なかよし はる なつ(12時間)</b>   |    |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |
|        | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">                     ①友達と一緒に海岸の生きものなどふれ合ったりしながら、楽しく遊ぶ。<br/>                     ②暗れた口には、水遊びや、砂遊びをして楽しむ。                 </div>   |    |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |
| 探究的な活動 | <b>きせつと なかよし あき(9時間)</b>   |    |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |
|        | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">                     ①見つけた生きもの名前を(教科書や図鑑で)調べたり、観察したりする。                 </div>   |    |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |
|        | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">                     ①見つけた生きもの名前を(教科書や図鑑で)調べたり、観察したりする。<br/>                     ②「あきのたからものランド」に必要なものを作ったり準備したりする。<br/>                     ③遊び方やルールをグループで話し合ったり、試みに遊んでみたりして工夫する。                 </div> |    |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |
| 発信活動   | (海の子作品展)   |    |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |
|        | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">                     ①見つけたことや楽しかった遊び、驚いたことや不思議に思ったことなどを絵や文などにして表現したり、友達と伝え合ったりする。                 </div>   |    |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |
|        | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">                     ①絵画作品の製作(図工)                 </div>   |    |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |
|        | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">                     地域人感謝祭で発表                 </div>  |    |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |

5 関係機関との連携及び内容  
散布漁業協同組合：海岸探索

令和2年度 2年生 生活科「散布学（海洋編）」 年間カリキュラム

- 1 単元名 「めざせ 生きものはかせ」
- 2 コンセプト A：海に親しむ B：海を知る
- 3 実践のねらい
  - ・海の生きものを育てる活動を通して、生きものたちががんばっていた場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけることができ、適切な世話の仕方や、それらが生命をもっていることや成長していることに気付く、生きものへの親しみもち、大切にすることができるようになる。

4 年間活動計画 (16 時間扱い)

|        | 4月  | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|--------|---|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|
| 体験的な活動 | <p><b>めざせ 生きものはかせ (10 時間)</b></p> <p>①学校の近くの自然の中(海岸)にどんな生きものを見つけたことがあるかを発表する。<br/>②安全に気をつけて生きもの探しに出かける。</p>   |    |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |
| 探究的な活動 | <p>①飼いや方について、生きものに詳しい人に聞いたり、図鑑や本を見たり、インターネットで調べたりする。</p>  |    |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |
| 発信活動   | <p>①飼っている生きものを紹介し合うことについて話し合う。<br/>②発表の準備をする。<br/>③クイズや発表・新聞・身体表現などさまざまな方法で発表する。</p> <p style="text-align: center;">(海の子作品展)</p> <p>① 絵画作品の製作(図工)</p> <p style="text-align: right;">地域人感謝祭で発表</p> |    |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |

- 5 関係機関との連携及び内容  
散布漁業協同組合：海岸探索

1 単元名 「きせつと なかよし はる なつ」

2 単元のねらい

- ・春や夏の自然を諸感覚を使って観察したり、自然物を使って遊んだりする活動を通して、春や夏の特徴や違いを見付けることや、それらを使って遊ぶ方法を考えたり、遊びを楽しく工夫したりすることができ、自然や生活の様子の変化、自然の面白さや不思議さ、海岸や公園のルールやマナーを守って遊ぶことなどについて気付き、季節を取り入れて遊びや生活を楽しく創り出すことができるようにする。

3 単元指導計画（散布学関連分）

| 時   | 学 習 活 動  | 備考・外部との連携   |
|---|--|-------------|
| 1   | <p>○（単元の導入）</p> <p>《海岸や公園で遊んだ経験を思い出し、自然の中で遊ぶ楽しさに気付き、春や夏の季節の特徴を生かした楽しい遊びに関心をもつ》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・春や夏には、こんなことをして遊んだよ。</li> <li>・海岸では、貝殻などを拾って遊びたいな。</li> </ul>  |             |
| 2   | <p>○かいがんで あそぼう</p> <p>《海岸や公園の自然に、諸感覚を使って関わったり、自然物で遊んだりして、季節の特徴に気付き、それらと適切に関わって遊ぶ》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海岸には色々なものがあるね。</li> <li>・生き物もたくさんいるね。</li> <li>・流れてきた木などを使って、何か作れないかな。</li> </ul>                  | 保護者<br>散布漁協 |
| 2   | <p>○はるから なつの いきもの</p> <p>《生きものを見付けたりして、遊びや、工夫して遊びを作り出す面白さに気付き、遊びを楽しみたいという願いをもって、自然と触れ合う》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海岸には、色々な生き物がいたね。</li> <li>・海岸で遊んだけど、あの遊びが面白かったな。</li> <li>・見つけた生き物の名前を図鑑で調べてみよう。</li> </ul> |             |
| 4   | <p>○なつを かんじよう</p> <p>《暑くなってきた気候を生かして遊びを楽しむ》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・晴れた日の海岸での水遊びや砂遊びは楽しいね。</li> <li>・遊んで楽しかったことを、絵や文にかいてみよう。</li> </ul>  |             |
| 1   | <p>○なにを かんじたかな</p> <p>《身近な自然で繰り返し遊んだ活動を振り返って、その面白さや不思議さに気付いたり、友達と一緒に遊ぶ楽しさに気付く》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海岸で遊んで、こんなことが楽しかったよ。</li> </ul>   |             |
| <p>学習コンセプトに関して</p> <p>A海に親しむ<br/>海岸での遊びを通して、身近な海に親しむ。</p> <p>B海を知る<br/>海岸の生きものや貝殻について調べる。</p> |  |             |



1 単元名 「きせつと なかよし あき」

2 単元のねらい

- ・秋の自然を諸感覚を使って観察したり、自然物を使って遊んだりする活動を通して、秋の特徴や他の季節との違いを見付けることや、それらを使って遊ぶ方法を考えたり、遊びを楽しく工夫したりすることができ、自然や生活の様子の変化、自然の面白さや不思議さ、海岸や公園のルールやマナーを守って遊ぶことなどについて気づき、季節を取り入れて遊びや生活を楽しく創り出すことができるようにする。

3 単元指導計画（散布学関連分）

| 時   | 学 習 活 動   | 備考・外部との連携   |
|---|---|-------------|
| 1   | <p><b>○（単元の導入）</b><br/> <b>《秋の海岸や公園の変化を思い起こして、生活の変化や自然の様子に気づき、秋にできる遊びについて期待をもつ》</b><br/>                     ・秋の海岸は、春や夏とどのように変わってるのかな。<br/>                     ・みんなで、こんなことをしてみたいな。</p> |             |
| 2   | <p><b>○あきを 見つけに いこう</b><br/> <b>《海岸に出かけ、秋の海岸の様子や生きものなどを観察し、季節の変化に気付く》</b><br/>                     ・秋の海岸にも色々なものがあるね。<br/>                     ・夏と違うのは、どんなところかな。</p>                     | 保護者<br>散布漁協 |
| 2   | <p><b>○なにを かんじたかな</b><br/> <b>《見つけた秋の特徴や自然物、楽しかった活動などを友達と伝え合い、遊びや生活をより楽しくする》</b><br/>                     ・海岸で遊んだけど、あの遊びが面白かったな。<br/>                     ・見つけた生き物の名前を図鑑で調べてみよう。</p>    |             |
| 1   | <p><b>○たからもので あそぼう</b><br/> <b>《海岸で集めた物の特性を生かして、簡単な遊びを楽しむ》</b><br/>                     ・貝殻を使って遊びたいな。<br/>                     ・拾った木を使ってこんな遊びができたよ。</p>                                 |             |
| 2   | <p><b>○たのしさを つたえよう</b><br/> <b>《「あきのたからものランド」の準備をする》</b><br/>                     ・貝殻を使って、おもちゃを作ろう。<br/>                     ・拾った木を使った遊びは、こう変えたらもっと面白いね。</p>                            |             |
| 2   | <p><b>○みんなで たのしもう</b><br/> <b>《「あきのたからものランド」で、すすんで触れ合い交流する》</b><br/>                     ・こんなふう遊ぶんだよ。</p>   | 地域大感謝祭      |
| 1   | <p><b>○なにを かんじたかな</b><br/> <b>《活動を振り返り、みんなで秋を楽しむことができたことや、友達や自分自身の成長に気付く》</b><br/>                     ・みんなで準備したり、遊ぶことができてが楽しかったね。</p>  |             |
| <p>学習コンセプトに関して<br/>                     A海に親しむ<br/>                     海岸での遊びを通して、身近な海に親しむ。<br/>                     B海を知る<br/>                     海岸の生きものや貝殻について調べる。</p> |   |             |

1 単元名 「めざせ 生きものはかせ」

2 単元のねらい

- ・海の生きものを育てる活動を通して、生きものたちがすんでいた場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけることができ、適切な世話の仕方や、それらが生命をもっていることや成長していることに気づき、生きものへの親しみをもち、大切にすることができるようにする。

3 単元指導計画

| 時   | 学 習 活 動   | 備考・外部との連携   |
|---|---|-------------|
| 1   | <p><b>○（単元の導入）</b><br/> <b>《海の生きものを育てることを話し合い、生きものを採取したり育てたりするイメージをもつ》</b><br/>                     ・海岸では、こんな生きものを見つけたよ。<br/>                     ・こんな生き物を飼いたいな。</p>  |             |
| 2   | <p><b>○生きものを つかまえよう</b><br/> <b>《生きものの特徴を予想して、生息場所や生態に合わせた道具を準備し、自分で生きものを見つける》</b><br/>                     ・海岸の生きものをどうやってつかまえようか。<br/>                     ・世話ができる分だけを捕まえよう。</p>   | 保護者<br>散布漁協 |
| 3   | <p><b>○生きものを かって みよう</b><br/> <b>《育つ環境と関係づけながら、観察をしたり、特徴に合わせた適切な世話をし、形態や生態に気づき、海の生きものを大切にする》</b><br/>                     ・飼い方をインターネットで調べてみたよ。<br/>                     ・図鑑にはこのように書いてあったよ。<br/>                     ・大切に育てたいね。</p>  |             |
| 3   | <p><b>○生きもの の こと を つた え 合 お う</b><br/> <b>《生きものの特徴など伝えたいことを工夫してまとめ、相手に伝えるよさや楽しさ、適切な伝え方がわかり、伝えたいという思いをもち、すすんで交流する》</b><br/>                     ・飼っている生き物についてどのように紹介し合うかな。<br/>                     ・ぼくは飼っている生き物についてクイズで伝えるよ。<br/>                     ・私は、他の方法で伝えてみたいな。</p> | 地域大感謝祭      |
| 1   | <p><b>○何を かんじたかな</b><br/> <b>《育てて実感したことや生きものの特徴を伝え合い、上手に世話ができるようになったことに気づき、継続して育てた自分に自信をもち、生命あるものを大切にする》</b><br/>                     ・生きもののお世話って大変だね。<br/>                     ・毎日しっかり餌をあげることができたよ。</p>  |             |
| <p>学習コンセプトに関して<br/>                     A海に親しむ<br/>                     海岸での観察を通して、身近な海に親しむ。<br/>                     B海を知る<br/>                     海や海岸の生きものについて、その生態や世話の仕方について調べる。</p> |   |             |

- 1 単元名 「海辺のゴミについて考えよう！」「散布の海の仕事を調べよう」「歩くスキーで冬の湿原散策」
- 2 コンセプト A：海に親しむ B：海を知る C：海を守る
- 3 実践のねらい
  - ・海的环境を保全する活動を通して、自分たちの生活が海とつながっていることを理解し、進んで海の自然を守るようとする意欲を高める。
  - ・海の自然や資源、人との深いかわりについて関心を持ち、進んで調べようとする児童を育成する。

4 年間活動計画（30時間扱い）

|        | 4月                                       | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|--------|--|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|
| 体験的な活動 | 「海辺のゴミについて考えよう！」(7時間)                    |    |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |
| 探究的な活動 | 「散布の海の仕事を調べよう！」(11時間)<br>(旬の魚介類を使った料理教室) |    |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |
| 発信活動   | 「歩くスキーで冬の湿原散策」(7時間)                      |    |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |

①海辺のゴミ拾い(ビーチコーミング)  
②ゴミを「海のもの」「山のもの」「人工物」「自然物」に分類

①分解されないゴミの割合・山所等を調べる  
②マイクロプラスチックについて調べる  
③自分たちにできることを考える(家庭や地域への働きかけ等)

①成果を霧多布湿原センターで発表し、成果物を展示する  
②来場者の感想や意見をまとめる

①漁港周辺散策  
②昆布干し体験  
③ウニ養殖見学

①散布の漁業について調べる(漁業の一年、漁法等)  
②漁業携わる人々の苦労や願いを知る(インタビュー等)  
③生産性や価値を高める方法を考える(育てる漁業、おいしい食べ方等)

(海の子作品展)  
①絵画作品の製作

①調べた結果をまとめる  
①調べた結果をまとめる

①保護者に対し一年間の学びの成果を発表(参観日)

①歩くスキーで動物の足跡や野鳥の観察、チカ釣りの見学

①一年間の学び(海と山のつながり)をまとめる

①保護者に対し一年間の学びの成果を発表(参観日)

- 5 関係機関との連携及び内容  
霧多布湿原センター：ビーチコーミング・歩くスキー講師  
散布漁業協同組合女性部：旬の魚介類を使った料理教室講師（予定）

- 1 単元名 「海辺のゴミについて考えよう！」
- 2 単元のねらい
- ・自分たちの住む地域の生活が海とつながっていることを理解し、進んで海の自然を守ろうとする意欲を高める。
  - ・海の自然や資源、人との深いかかわりについて関心を持ち、進んで調べようとする児童を育成する。

3 単元指導計画

| 時  | 学 習 活 動  | 備考・外部との連携                |
|--|--|--------------------------|
| 1  | <p><b>○日常生活やこれまでの学習から、散布周辺の海や海岸のゴミの状況を思い出す</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・きれいに見えるけどよく見るとたくさんゴミがある</li> <li>・どれくらいの量があるんだろう</li> </ul> <p><b>○調査の仕方を知る</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・霧多布湿原センター職員による説明</li> </ul> | 霧多布湿原センター                |
| 2  | <p><b>○ビーチコーミングを行う</b><br/> <b>≪「海のもの」と「山のもの」、「人工物」と「自然のもの」で分類する≫</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プラスチックのゴミが多い</li> <li>・どこから流れてくるんだろう</li> <li>・世界中でどれくらいのゴミが海に流れているんだろう</li> </ul>   | 霧多布湿原センター<br>浜中町町民課生活環境係 |
| 3  | <p><b>○海のゴミについて調べる</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プラスチックはどれくらいで自然に戻るんだろう</li> <li>・去年の社会科見学で、リサイクルセンターの人が、マイクロプラスチックって言っていたけど、何だろう？</li> </ul>  | 浜中町町民課生活環境係              |
| 1  | <p><b>○調べた結果を発信する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者、地域、町内の小学校3・4年生児童を対象に、学習の成果を発表する。</li> </ul> <p>※成果物、ポスターは霧多布湿原センターに期間を決めて展示し、来場者にアンケートを書いてもらう<br/>                     (後日まとめて地域大感謝祭で発表する)</p>                               | 集合学習を活用                  |
| <p>学習コンセプトに関して</p> <p>A海に親しむ<br/>自分たちの身近な環境であり、保護者や地域の人たちが働く場所である海を進んできれいにしようとする。</p> <p>B海を知る<br/>現在、世界中の海で年間800万トン（※ジャンボジェット機5万機相当）のプラスチックが海に流入しているといわれている。</p> <p>C海を守る<br/>自分たちにできることを考え、霧多布湿原センターに成果物を展示し、来場者をはじめ保護者や地域の方々に発信する</p> |  |                          |

1 単元名 「散布の海の仕事を調べよう」

2 単元のねらい

- ・自分たちの住む地域の産業や携わる人々の思いを理解し、進んで地域の発展に貢献しようとする意識を高める。
- ・海の自然や資源、人との深いかかわりについて進んで調べようとする意識を高める。

3 単元指導計画

| 時   | 学 習 活 動  | 備考・外部との連携                         |
|---|--|-----------------------------------|
| 2   | <b>○散布漁港及び火散布沼周辺での見学・体験</b><br>・昆布干し体験 ・ウニ養殖見学 ・水揚げ作業の見学<br>などから保護者・漁協と相談し決定   | 《協力・受入れ》<br>散布漁協青年部               |
| 3   | <b>○漁業について調べる</b><br>・散布でとれる昆布は？ 年間どれくらいとれるの？<br>・ウニは何を食べていて、どのように成長するの？<br>・散布ではどんな魚介類がどの時期にとれるの？<br><b>○漁業に携わる人々の思いを知る（インタビュー）</b><br>・昔ほど魚が獲れなくなっている<br>・若者の魚ばなれ ・価格が上がらない など | 昨年度の調べ学習の発展<br><br>保護者<br>散布漁協青年部 |
| 1   | <b>○これからの漁業・地域の未来について考える</b><br>・作業を楽にする方法は？<br>・とってばかりいたら、いつか魚や昆布がとれなくなってしまうんじゃない？<br>・おいしい食べ方をセット販売したらみんな昆布や魚を食べるんじゃない？  |                                   |
| 3   | <b>○地元の魚介類のおいしい食べ方を学ぼう</b><br>・自分たちにもできる地元の昆布やサケを使った料理を学ぼう！  | 指導：<br>散布漁協女性部                    |
| 1   | <b>○調べた結果をまとめよう</b><br>・これまでの学習のまとめを行う   |                                   |
| 1   | <b>○調べた結果を発信する</b><br>・地域大感謝祭で、保護者や地域の方々に対し自分たちの学びの成果を発信する。  | 保護者<br>散布漁協<br>散布小中学校コミュニティ・スクール  |
| 学習コンセプトに関して<br>A海に親しむ<br>見学や体験をとおして保護者や地域の方々の仕事に関心を持つ。<br>B海を知る<br>保護者や地域の方々の仕事が海の恩恵を受け、環境に大きく影響を受けていることを知る。<br>C海を守る<br>獲る漁業から育てる漁業へと形態を変えつつある地域の人々の思いを理解する。また、獲れた魚介類の価値を高める工夫等を考え、保護者や地域の方々に発信する。 |  |                                   |

1 単元名 「歩くスキーで冬の湿原散策」

2 単元のねらい

- ・ 普段眺めるだけの湿原に入り、季節による自然の変化を体感する。
- ・ 観察を通して海と山には深いつながりがあることを理解し、進んで自然を守ろうとする意識を高める。

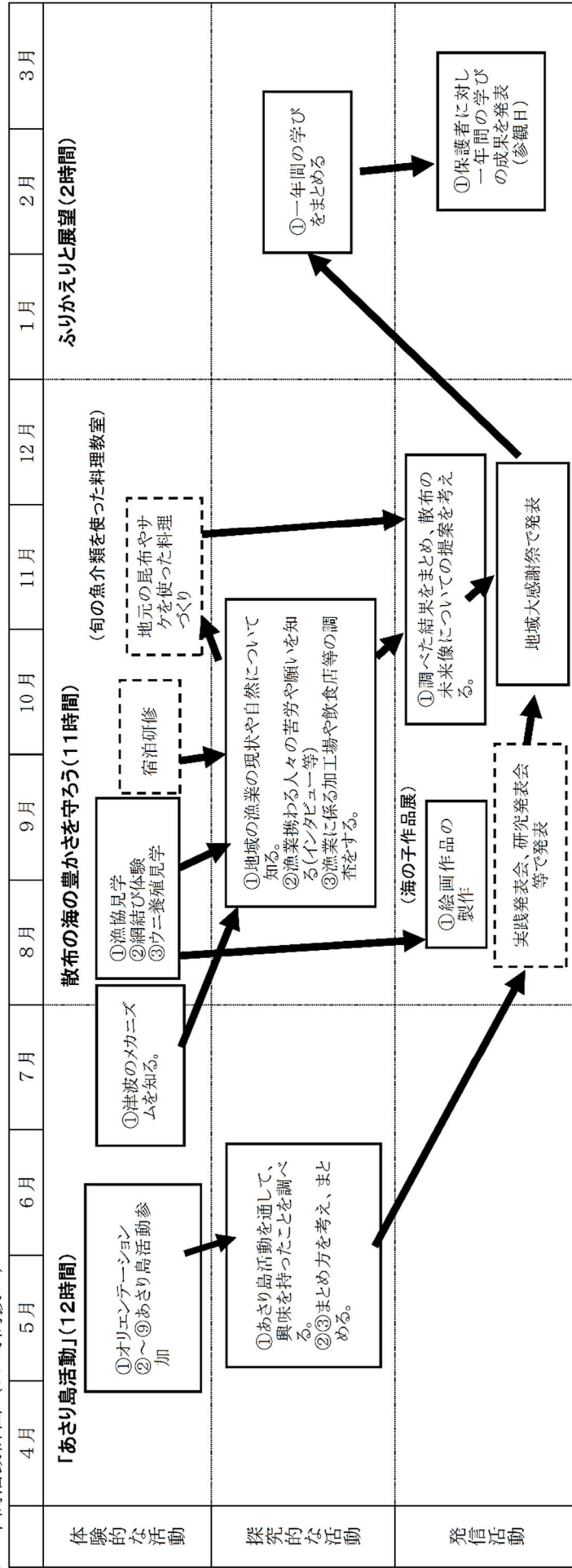
3 単元指導計画

| 時   | 学 習 活 動   | 備考・外部との連携  |
|---|---|--|
| 4   | <p><b>○歩くスキーで冬の湿原を観察する</b></p> <p><b>《観察》</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 琵琶瀬川散策</li> <li>・ ネズミの足跡やトンネルの観察</li> <li>・ チカ釣りの見学</li> <li>・ 野鳥観察（オジロワシ、オオワシ、トビ）</li> </ul> <p><b>《スタッフによる講話》</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 水や空気の浄化、生き物を育むための湿原の役割について</li> </ul> | <p>《協力・受入れ》<br/>霧多布湿原センター</p> <p>霧多布湿原センター職員</p> |
| 1   | <p><b>○見学のまとめを行う</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 湿原散策で学んだことをまとめる</li> </ul>  |  |
| 1   | <p><b>○一年間の学習のふりかえり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ゴミ拾い、海の仕事調べ、湿原散策等、一年間の学びをふりかえる</li> </ul>  |  |
| 1   | <p><b>○調べた結果を発信する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保護者や地域の方々に対し自分たちの学びの成果を発信する。</li> </ul>  | <p>授業参観<br/>散布小中学校コミュニティ・スクール</p>                |
| <p>学習コンセプトに関して</p> <p>A海に親しむ<br/>身近な環境である冬の霧多布湿原を中から体感する。</p> <p>B海を知る<br/>海と山には深いかかわりがあること、また、循環の過程で大気と水を浄化する湿原の働きについて理解する。</p> <p>C海を守る<br/>地域の海洋環境保全のためには、自分たちの住む地域だけでなく、より広い視野が必要であることを知り、進んで環境のために行動しようとする意識を育む。</p> |   |  |

令和2年度 5・6年生 「散布学（海洋編）」 年間カリキュラム

- 1 単元名 「あさり島活動への参加」「散布の海の仕事を調べよう」「歩くスキーで冬の湿原散策」
- 2 コンセプト B：海を知る C：海を守る D：海を利用する
- 3 実践のねらい
  - ・海の環境を保全する活動を通して、自分たちの生活が海とつながっていることを理解し、進んで海の自然を守ろうとする意欲を高める。
  - ・海の自然や資源、人との深いかかわりについて関心を持ち、進んで調べ、自分たちでできることを見つけて実践しようとする児童を育成する。

4 年間活動計画（30時間扱い）



- 5 関係機関との連携及び内容  
 北海道教育大学釧路校：津波発生のメカニズム（予定）  
 散布漁業協同組合：漁港見学  
 浜中町役場：散布の未来像の提案（予定）

1 単元名 「あさり島活動」

2 単元のねらい

- ・海を保全する活動を通して、自分たちの生活が海とつながっていることを理解し、進んで海を自然を守ろうとする意欲を高める。
- ・海を自然や資源、人との深いかかわりについて関心を持ち、進んで調べ、自分たちでできることを見つけ実践しようとする児童を育成する。

3 単元指導計画

| 時  | 学 習 活 動  | 備考・外部との連携                                     |
|--|--|---|
| 1  | <p><b>○あさり島活動についてのオリエンテーション</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あさり島活動について知る。</li> <li>・アサリの生態について知る。</li> <li>・準備や心構えを確認する。</li> </ul> <p><b>○調査テーマを考える。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あさり島活動を通して調べたいテーマや探求方法を考える。</li> </ul> | <p>釧路地区水産技術普及指導所<br/>散布漁業協同組合<br/>中学校との連携</p> |
| 8  | <p><b>○あさり島活動への参加</b><br/><b>《中学生と一緒に活動し、あさりの採取、外敵駆除、稚貝巻きを体験する》</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あさりはどのようなところにいるか。</li> <li>・外敵駆除や稚貝巻きであさり島の環境を守っているんだ。</li> <li>・あさが益金に変わることを知る。</li> </ul>  | <p>散布漁協同組合<br/>中学校との連携</p>                    |
| 3  | <p><b>○あさり島活動を通してもった課題について調べる</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あさは水をきれいにするけど、どのくらいきれいにするんだろう。</li> <li>・あさが住みやすい環境はどんなところだろう。</li> <li>・あさりの外敵についてもっと知りたい。</li> <li>・火散布沼の周りの自然について調べたい。</li> </ul>   | <p>中学校との連携</p>                                |
| 1  | <p><b>○調べた結果を発表する</b><br/>地域大感謝祭や実践発表会、参観日等で発表をする。</p>   |   |
| <p>学習コンセプトに関して</p> <p>B海を知る<br/>あさり島を支える環境について体験する。</p> <p>C海を守る<br/>あさりの生態について知り、自分たちにできることを考え、発信する。</p> <p>D海を利用する<br/>あさり島での益金についてその活用について知る。</p> |  |   |



1 単元名 「散布の海の豊かさを守ろう」

2 単元のねらい

- ・海的环境を保全する活動を通して、自分たちの生活が海とつながっていることを理解し、進んで海を自然を守ろうとする意欲を高める。
- ・海を自然や資源、人との深いかかわりについて関心を持ち、進んで調べ、自分たちでできることを見つけ実践しようとする児童を育成する。

3 単元指導計画

| 時   | 学 習 活 動   | 備考・外部との連携                        |
|---|---|----------------------------------|
| 3<br>5<br>6   | <p><b>○様々な体験活動から散布の海との関連を考える</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁港、漁協見学。</li> <li>・宿泊学習における見学や体験活動。</li> <li>・津波の発生のメカニズム。</li> </ul> <p><b>○調査テーマを考える。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な体験活動を通して調べたいテーマや探求方法を考える。</li> </ul>  | 散布漁業協同組合                         |
| 3   | <p><b>○地域の自然環境や産業の状況について知る</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁港や漁協の見学。</li> <li>・網を結び仕掛けを創る体験から、漁業について理解を深める。</li> <li>・ウニの養殖場を見学し、育てる漁業について理解を深める。</li> <li>・宿泊学習で厚岸の加工場や飲食店等を見学調査する。</li> <li>・津波の発生メカニズム等について知る。</li> </ul> <p><b>○体験活動を通してもった課題について調べる</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・もっと散布の昆布を知ってもらうには。</li> <li>・散布ならではの食材を使ってなにかできないか。</li> <li>・PRポスターを作りたいな。</li> </ul> | 散布漁業協同組合                         |
| 2   | <p><b>○調べた結果を発表する</b></p> <p>地域大感謝祭や実践発表会、参観日等で発表をする。<br/>※内容によっては役場の人に提案内容を聞いてもらう。</p>   | この他にも発表の場（成果発表や参観日）を考慮。<br>役場観光課 |
| <p>学習コンセプトに関して</p> <p>B海を知る<br/>自分たちの周りにある海との対比を通して、散布の海の豊かさについて体験する。</p> <p>C海を守る<br/>豊かな散布の海について現状を知り、自分たちにできることを考え、発信する。</p> <p>D海を利用する<br/>散布の未来像について、提案する。</p> |   |                                  |

### 1 はじめに

今年度から3年間にわたり、日本財団・東京大学海洋教育センター・笹川平和財団海洋政策研究所「海洋教育パイオニアスクールプログラム」の研究指定を受け、小学校において初年度の実践に取り組んできた。

太平洋の入り江に面し、保護者の多くが漁業や漁業関連の仕事で生計を立てている本校であるが、地域の水産業や自然環境、津波など海に関する脅威等に関しては、これまで小学校では体系的な学びは行ってこなかった現状にある。

今年度、試行的ではあるが、これらの学びを各教科と相互に関連付けて行うことにより、次のとおり成果を得ることができた。また、実践を通して、多くの課題も浮かび上がったことである。

### 2 成果と課題

#### (1) 成果

- ・今年度から小学校5・6年生が中学校のあさり島活動に参加できたことは大きな成果である。小中の連携を図る上でもいい機会となった。
- ・校区探検や海に関する様々な体験・見学を行う中で、保護者や地域の方々の仕事や本校周辺の自然の豊かさに、今まで以上に興味・関心を持たせることができた。
- ・本校で取り組んでいる「社会人基礎力」の「発信力」に重点をおいた活動に取り組むことで、児童に発表や発信させる機会を意図的に計画・実施することができた。
- ・地域大感謝祭において「散布漁協女性部とのコラボ」という新しい取組が生まれ、学校の依頼に地域が応えてくれることを実感した。
- ・調べ学習の過程で保護者や地域の方々の思いに触れることができ、より一層地域に誇りを持つことができた。

#### (2) 課題

- ・今年度の試行では、地域の豊かな海を進んで守ろうとする取組や、地域のブランド化に関する学びが少なかった。
- ・あさり島活動でさらなる小中の活動での連携の仕方を考えていくことが今後の課題の一つである。また、これまで中学校ではあさりの生態学習の内容を3年間でローテーションしていたが、小学生の参加により、内容を精査する必要がある。
- ・地域との連携場面で、事前の連絡調整やねらいの共有など、今後も綿密な打ち合わせが必要である。

### 3 次年度に向けて

小学校低学年においては、身近な海での遊び等の時間をさらに確保しより海に対する興味関心を高めていくほか、中・高学年においては、海洋の環境保全や魚介類の価値を高める工夫、あさり島活動をはじめ漁業の仕事への積極的な関わり等、様々な体験や探究活動を通して、地域の海や水産資源と環境の結びつきについて学び、地域の発展に貢献できる人づくりに取り組んでいきたい。

浜中町立散布小学校

|       |       |
|-------|-------|
| 校長(兼) | 中村研自  |
| 教頭    | 清水秀紀  |
| 教諭    | 福原直仁  |
| 教諭    | 小林由香利 |
| 教諭    | 高橋訓   |
| 教諭    | 百武里弥  |
| 養教    | 森下みなみ |
| 事務    | 小笠原佳子 |
| 事生    | 佐藤春菜  |

浜中町立散布中学校

|       |       |
|-------|-------|
| 校長    | 中村研自  |
| 教頭    | 岩谷拓実  |
| 教諭    | 尾崎唯   |
| 教諭    | 蝦名邦人  |
| 教諭    | 鶴見真弥  |
| 教諭    | 齊藤昌義  |
| 教諭    | 岩城裕   |
| 教諭    | 近重大治  |
| 教諭    | 大寺善仁  |
| 教諭    | 大畠慎平  |
| 教諭    | 鹿子島潔  |
| 養教(兼) | 森下みなみ |
| 事務(兼) | 小笠原佳子 |
| 事生(兼) | 佐藤春菜  |

発行日 令和2年3月

発行者 浜中町立散布小中学校

〒088-1536 厚岸郡浜中町火散布 133 番地

TEL/0153-67-2324 FAX/0153-67-2350

印刷 釧路総合印刷株式会社



この実践記録集は、日本財団・東京大学海洋教育センター・笹川平和財団海洋政策研究所「海洋教育パイオニアスクールプログラム」の助成金を活用しています。